



佐賀大学 (佐賀県)



アジアの中の日本、世界の中の日本、地域から見える日本を学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

佐賀大学(さがだいがく)は、自然(しぜん)と共生(きょうせい)するための人類(じんるい)の「知」の創造(そうぞう)と継承(けいしょう)に努めて(つとめて)います。佐賀地域(ちいき)独自(どくじ)の研究(けんきゅう)を世界(せかい)へ発信(はっしん)しようとしています。そして、アジアの知的拠点(ちてききょてん)を目指し(めざし)、国際社会(こくさいしゃかい)に貢献(こうけん)しています。

(学 部)教育(きょういく)学部、
芸術地域(げいじゅつちいき)デザイン学部、
経済(けいざい)学部、
医学(いがく)部、
理工(りこう)学部、
農学(のうがく)部
学部生数 5,839名

(大学院)学校教育学(がっこうきょういくがく)研究科、地域(ちいき)デザイン研究科、医学系(いがくけい)研究科、先進健康科学(せんしんけんこうがく)研究科、理工学(りこうがく)研究科、工学系(こうがくけい)研究科、農学研究科(のうがくけんきゅうか)

大学院生数 785名



② 国際交流の実績

世界各国・地域の107大学と交流協定を締結しています。現在、本学には183名の留学生在籍しています。2009年度から2020年度までに大使館推薦の日本語・日本文化研修生をベトナム2名、リトアニア、スウェーデン、アルメニア、ベルギー、インド、ブラジル、セルビア共和国、トルクメニスタン各1名、大学推薦の日本語・日本文化研修留學生カンボジア1名、ラオス1名、リトアニア2名、ベトナム2名を受け入れています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留學生(日研生)の受入れ実績

2020年：留学生数 183人、うち日本語・日本文化研修留學生 1人
2019年：留学生数 234人、うち日本語・日本文化研修留學生 1人
2018年：留学生数 240人、うち日本語・日本文化研修留學生 1人

④ 地域の特徴

佐賀(さが)大学のある佐賀県(さがけん)は、九州(きゅうしゅう)の北西部(ほくせいぶ)に位置(いち)し、自然(しぜん)が美しく(うつくしく)、歴史(れきし)が豊か(ゆたか)なところです。メインキャンパスは佐賀市(さがし)にあります。佐賀市は、物価(ぶっか)が安く(やすく)、住み(すみ)やすい町(まち)です。気候(きこう)は温暖(おんだん)で、年間(ねんかん)の平均(へいきん)気温(きおん)は17度です。

春(はる)には、満開(まんかい)の桜(さくら)、夏(なつ)には、鮮やか(あざやか)な緑(みどり)と花火(はなび)を見ることが出来ます。また、秋(あき)には、黄金色(こがねいろ)の水田(すいでん)と、カラフルなバルーンが青い(あおい)空(そら)を舞う(まう)姿(すがた)があります。冬(ふゆ)には、ときどき、雪(ゆき)がふります。

佐賀の人々は国際(こくさい)交流(こうりゅう)に大変(たいへん)熱心(ねっしん)で、インターナショナルバルーンフェスタやいろいろな交流(こうりゅう)イベントに参加(さんか)できます。

また、佐賀(さが)は陶磁器(とうじき)でも非常に有名(ゆうめい)で、有田(ありた)、唐津(からつ)などの焼き物(やきもの)の産地(さんち)があります。

県内のあちこちに、アニメ「ゾンビランドサガ」や「ユーリ!!! on ICE」の舞台となった場所があります。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修



② 研修・コースの特色

佐賀大学は、学生と先生がよくコミュニケーションできる大学です。本コースは、佐賀の美しい自然(しぜん)や心温かい人々といっしょに、日本社会や文化への理解を深め、日本語の能力(のうりょく)を伸ばす(のばす)ことができるコースです。

<日本語>

本コースでは、研修生(けんしゅうせい)のレベルに合った日本語科目を履修(りしゅう)できます。レベルにもよりますが、最大で1週間に4~5時間程度の日本語の授業を受けることができます。また、日本人ボランティアと交流(こうりゅう)できる授業もあります。

静かで歴史豊かな
佐賀の生活は
体験してみんしゃい



<日本文化・日本事情・専門科目>

留学生のための日本事情(にほんじじょう)の科目があります。また、インターフェース異文化交流科目では、日本人の学生といっしょに、議論(ぎろん)をしたり、見学(けんがく)に行ったり、といった活動(かつどう)をします。

これらの授業によって、研修生は、より深く日本を理解し、日本語の実践的(じっせんてき)な能力(のうりょく)を身(み)につけることができます。

また、研修生の興味(きょうみ)や専門(せんもん)に応(おう)じた科目を受講(じゅこう)することができます。

<学生生活>

大学主催(しゅさい)の留学生と日本人学生のための催(もよお)しや、学生主催のパーティーが多く行われています。佐賀大学の学生と交流(こうりゅう)する機会が数多く設(もう)けられています。また、地域(ちいき)の学校や文化教室(ぶんかきょううしつ)の講師(こうし)などをしている学生もいます。

③ 受入定員

14名(大使館推薦7名、大学推薦7名)

④ 受講希望者の資格、条件等

- 1) 主専攻(しゅせんこう)あるいは副専攻(ふくせんこう)が日本語、日本文化など日本に関する分野(ぶんや)である学部(がくぶ)学生。
- 2) 中級以上(ちゅうきゅういじょう)の日本語能力(にほんごのうりょく)を持っていること。(N2合格程度)



⑤ 達成目標

- ・日本文化や日本事情、日本語について幅広(はばひろ)い知識(ちしき)を身につけること。
- ・日本社会に親(した)しむこと。
- ・自国で専門研究(せんもんけんきゅう)するための基礎能力(きそのうりょく)を養(やしな)うこと。
- ・研修生の帰国後のキャリア選択(せんたく)に役立つ(やくだつ)実践的(じっせんてき)な日本語運用能力(にほんごうんようのうりょく)を身につけること

⑥ 研修期間(在籍期間)

2021年10月1日 ~ 2022年8月31日

I 期: 2021年10月1日~2022年3月31日

II 期: 2022年4月1日~2022年8月31日

修了式は8月予定

⑦ 奨学金支給期間

2021年10月 ~ 2022年8月

⑧ 年間行事・年間スケジュール

- | | |
|-------|--|
| 9月下旬 | 渡日 |
| 10月 | 開講式
オリエンテーション
新入留学生ウェルカムパーティー |
| 11月 | 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ
唐津くんち |
| 12月 | 冬休み |
| 2月中旬~ | 春休み |
| 4月 | 春学期開始 |
| 5月 | 有田陶器市
ガタリンピック |
| 8月 | 夏休み
栄の国祭り
修了式
フェアウェル
パーティー |
| 8月下旬 | 帰国 |



⑨ コースの修了要件

日本語コースから春学期・秋学期合(あ)わせて2単位以上、インターフェース科目(かもく)から2単位以上、その他、佐賀大学の授業(じゅぎょう)の中から14単位以上が修了(しゅうりょう)のために必要です。コースの修了者に対し修了(しゅうりょう)証明書(しょうめいしょ)及び(および)成績(せいせき)証明書(しょうめいしょ)を発行(はっこう)します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

研修生は、全学教育機構および佐賀大学の各学部が開講する授業の中で、定められた「選択必修科目」を履修しなければなりません。

2) 選択必修科目(せんたくひつしゅうかもく)

科目名	単位数と時間数
日本語授業	2単位(30時間)
インターフェース科目	2単位(30時間)
研修生の興味がある科目	14単位(210時間)

インターフェース科目の「異文化交流(いぶんかこうりゅう)」の授業では日本人学生と交流しながら学ぶことができます。また、教養科目として、留学生向けの「日本事情(にほんじじょう)」があります。自分のレベルに合った日本語科目を履修することもできます。

・受講科目(じゅこうかもく)を決めるときは、指導教員(しどうきょういん)やコーディネーターと相談(そうだん)してください。

・今までの研修生は、日本語や日本文学、言語学、日本の建築(けんちく)、教育等に関する授業を受講しました。「日本語コース」のレベルは、プレースメントテストの結果で決めます。

・科目の名前などは変わることがあります。



3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

インターフェース科目(異文化交流いぶんかこうりゅう)では、日本人学生との交流や地域への貢献(こうけん)を授業の中心的(ちゅうしんてき)な活動に設定(せってい)しています。

短期留学生(たんきりゅうがくせい)といっしょに受講する日本事情研修(にほんじじょうけんしゅう)では、地域(ちいき)の歴史(れきし)・文化・産業(さんぎょう)を知るための学外見学(がくがいけんがく)をしたりできます。(「日本事情研修」は英語で行われます。)

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本事情研修やインターフェース科目の授業で、日本人学生といっしょに議論しながら学習(がくしゅう)することができます。

5) その他の講義

上記の科目のほか、研修生の興味がある科目を履修することができます。

6) 修了研究

指導教員(しどうきょういん)や国際交流推進センターの教員(きょういん)の指導(しどう)のもと、レポート作成を行うことができます。

⑪ 指導体制

1) 指導教員(しどうきょういん)

研修生(けんしゅうせい)の専門(せんもん)に応じて、指導教員が選ばれ、学習についての相談(そうだん)に乗ります。

2) コースコーディネーター

国際交流推進センター

准教授 布 尾 勝一郎

講師 吉 川 達



3) 研修生(けんしゅうせい)の日本での生活面(せいかつまん)に関して(かんして)は、本学(ほんがく)の保健(ほけん)管理(かんり)センターと連携(れんけい)をとりながら、国際(こくさい)交流(こうりゅう)推進(すいしん)センターの教職員(きょうしけん)が対応(たいおう)しています。

4) 研修生(けんしゅうせい)には、学生チューターが1名ずつつきます。学生チューターは、日常(にちじょう)生活(せいかつ)、勉強上(べんきょうじょう)のお手伝いや、日本人(にほんじん)学生(がくせい)と交流(こうりゅう)をするお手伝いをしてくれます。

■宿 舎

これまでの研修生(けんしゅうせい)は、民間(みんかん)のアパートに住んでいます。台所(だいどころ)、お風呂(ふろ)、トイレ、エアコンが付(つ)いていて、一か月の家賃(やちん)は約2万5千円～3万円です。佐賀大学が紹介(しょうかい)しているアパートは、家具(かぐ)が付いているところが多いです。家具が付いている部屋(へや)を選んだ学生は、佐賀での生活を簡単(かんたん)に始(はじ)めることができます。最初(さいしょ)の月は、敷金(しききん)と家賃(やちん)合(あ)わせて2か月分の家賃(やちん)を払(はら)わなければなりません。最初に必要(ひつよう)なお金はだいたい5～7万円です。

ちなみに、今までの研修生(けんしゅうせい)は冷蔵庫(れいぞうこ)、洗濯機(せんたくき)などが付いて約2万5千円のアパートに入居(にゅうきょ)しました。



■修了生へのフォローアップ

佐賀大学に留学した研修生(けんしゅうせい)は、佐賀大学で学んだことを生かして(いかして)、母国(ぼこく)の日系(にっけい)企業(きぎょう)で働いたり、日本の大学院(だいがくいん)に進学(しんがく)したりしています。

修了(しゅうりょう)した研修生は、SNSやメール、国際交流推進センターのホームページを通じて、佐賀大学やコーディネーターといつでも連絡(れんらく)することができます。

佐賀大学の学部(がくぶ)を卒業(そつぎょう)した留学生(りゅうがくせい)は、県内外(けんないがい)の企業(きぎょう)に就職(しゅうしょく)したり、母国(ぼこく)で就職(しゅうしょく)したり、また、佐賀大学や他大学の大学院(だいがくいん)に進学(しんがく)しています。有名な企業(きぎょう)で働いている卒業生もいます。



■問合せ先

<担当部署>

佐賀大学学術研究協力部国際課

住所: 〒840-8502

佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL +81-952-28-8169 (直通)

FAX +81-952-28-8819

E-mail ryugaku@mail.admin.saga-u.ac.jp

<ウェブサイト>

佐賀大学国際交流推進センター

<http://www.irdc.saga-u.ac.jp>

佐賀大学ホームページ

<http://www.saga-u.ac.jp>

日研生ホームページ <http://www.irdc.saga-u.ac.jp/ja/interest/jresearch.html>